

9月 イチゴ 栽培管理 (2022)

アグリ技研 (株)

日	生育期	肥培管理
1日	生殖成長期	<p>気象庁の三ヶ月予報では、今後も高温の傾向。</p> <p>「ラニーニャ現象」も継続するとの予想ですから、第1次腋果房までの分化促進対策に努みましょう。</p> <p>(果房間内容数を調整すれば苺生産は優位になり易くなります)</p>
2日		
3日		
4日		
5日		
6日		
7日		
8日		
9日		
10日		
11日		
12日		
13日		
14日		
15日	栄養成長期	<p>・定植後は、株元を主に十部な灌水と同時に発根剤で活着促進に努める。</p> <p>☆アミクエ5kgやウルル5号5kgの灌水処理。 ≪極端な多肥は腋果房の遅れとなります≫ ☆定植後はクラウン部に十分な灌水を行って発根促進。</p> <p>・25日頃から防除適期に向かいますのでハスモン類やダニ類を主とした対策を取りましょう。</p> <p>☆第1次腋果対策で被覆資材を10/中旬まで行います。</p> <p>☆芯葉の展開と腋果房の花芽分化促進に25日以降 PKゴー2000倍の葉面散布を行います。</p>
16日		
17日		
18日		
19日		
20日		
21日		
22日		
23日		
24日		
25日		
26日		
27日		
28日		
29日		
30日		
31日		
ポイント		<p>スムーズな活着と30日程で十分な根の環境を作り上げます、そのためにクラウン部を中心とした灌水と発根剤の使用です。品種により1次腋果分化対策で日中の被覆資材による下温対策を取りましょう。</p>